

◎第10回(2018年)全国院生生活実態調査から見る大阪大学院生の現状に関して

0) 本文章の目的・緒言

○基本情報

■第十回全国院生生活実態調査(2018年度実施)の大阪大学のデータを基に以下の4項目(新入院生/登校日数と滞在時間/健康/生協の運営参加)に対して、阪大生協院生委員会会議内にて実態調査を議論した。本資料はその結果を簡単にまとめたものである。

なお、本調査自体の大阪大学大学院生の有効回答数は240であり、その調査サンプル属性は巻末に示した。

■本調査を基とした更なる聞き取り調査の実施や、理事会などにおける実際の実感に基づく議論などを基に企画の実施や方針の策定などを行っていく。

1) 新入院生に関して

【概略】新入院生の大学院入学の動機に関して、「文理別」「学部が阪大か否か」という二つの階層わけで調査結果の考察を行った。

文理別では文系が自分の興味関心とその動機として多い傾向にあり、その一方で理系では就職に有利 や 進学が当たり前だと思った という理由も多く見受けられた。

学部時代の出身大学が大阪大学か否かによっても進学理由の差が見受けられ、新入院生という主語は同じでも、その進学動機や心持がその階層によって大きく異なることがわかる。

①大学院に進学した理由

…理系と文系で大きな差がある。

■文系は『自身の興味を深める』あるいは『専門知識を身に着ける』という目的で進学した人が多い。

■理系は『専門知識を身に着けたい』、『就職に有利だから』、『進学が当たり前だと思った』という理由が進学した理由の上位3つを占めていた。

■なお文理問わず、25%程度『社会に出たくない』との回答も見られた。

☞以上より、「文系は自身の興味関心」「理系は就職のため/専門知識を付けるため」という動機付けで大学院進学を決めているという傾向があることがわかる。

理系の約半数が進学が当たり前だという認識からの進学という点からもその傾向は顕著である。

②阪大の学部からの進学と、阪大以外の学校からの院進学 of 動機

■阪大の学部から進学した院生(構成比約9割)が進学した理由は、「今までの研究を続けたかった」「他の大学院に行くより楽」などが多かった。

■他の学校から阪大の大学院に進学した院生(構成比約1割)が進学した理由は、「別の分野の研究がしたかった」「同じ研究でも先進的だった」などが多かった。

☞以上より、広く「院生」とくくった場合でも、「阪大から/阪大以外から」「文系/理系」という違いで、進入院生の進学への動機や心持が大きく異なることがわかる。

2) 大学院生の登校日数と研究時間に関して

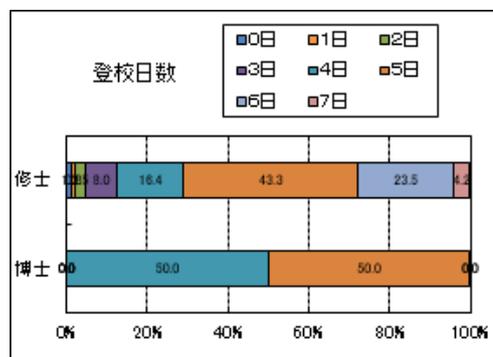
【概略】大学院生の登校日数・研究時間に関する調査データをまとめた。また、コアタイムの有無によるその登校/下校時間に関するデータもまとめた。

①登校日数と研究時間

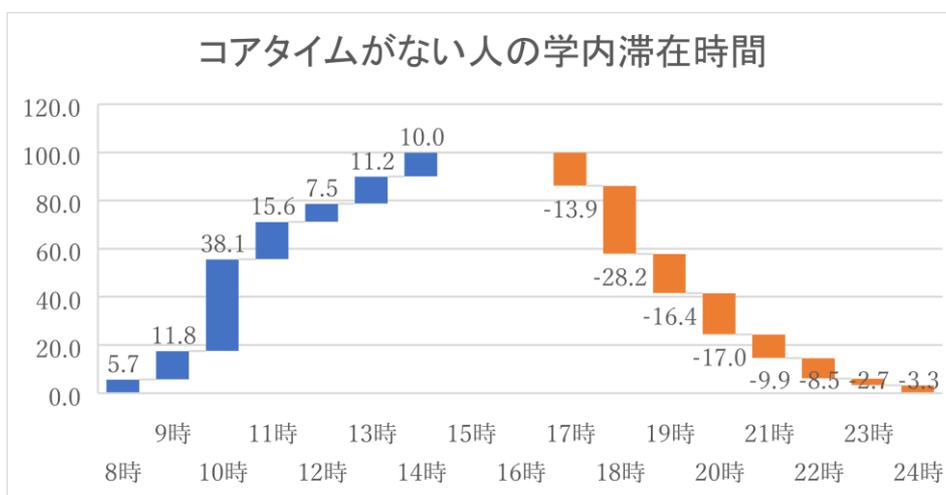
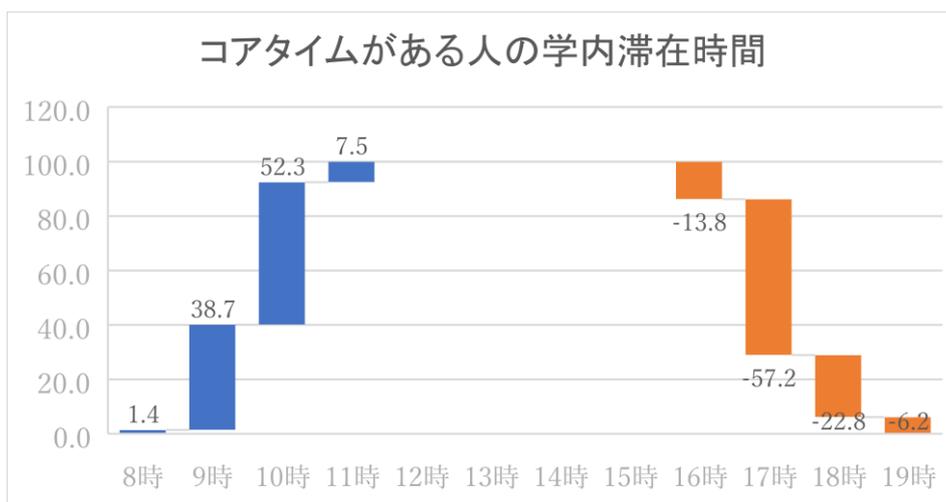
…登校日数は右図の通り。

■修士課程では5日弱程度が平均。なお、別データから一日当たりの平均滞在時間は8.2時間程度が平均である。

※博士課程の学生調査は母数 N=2



■コアタイム有(30%) / 無(70%)における登校時間一下校時間分布をグラフで示したものが以下。これによると、コアタイムが無いと、登校が遅くなり、その分として帰宅も遅くなる傾向がうかがえる。また、1割以上の院生が10時以降も学内に滞在している。



3) 大学院生の健康に関して

【概略】大学生の健康について、「食生活」「メンタルヘルス」という観点から考察を行った。食生活に関しては、下宿生と自宅生で差がありそうである。例えば、下宿阪大院生は顕著な朝食の欠食傾向がある。しかし、実際のところはどうのような食事が実現されているのかを追調査する必要がある。

メンタルヘルスの観点では、院生以外を含めた同世代平均と比べても特に突出してストレスを感じている人が多いわけではないものの、半数以上がストレスや悩みがあると答えている。そのため、院生ならではのケーススタディからのケアや理解を深めていくことが望ましい。

①大学院生の食生活に関して

■食費支出 自宅 17,200/下宿 31,300/寮 39,000 円

(仮に一月を 30 日として一日あたりを出せば、自宅 573/下宿 1,043/寮 1,300 円)

■朝食摂取率 自宅 79.4%/下宿 50.4%/合計 62.5%

(なお、農林水産省のサイト¹によれば、朝食をほとんど毎日食べていると回答したのは成人 83.7%，中学3年生で 83.3%)

■生協食堂に一週間のうち一度でも来店した割合 66.2%

生協食堂に一週間で四回以上来店した割合 23.7%

☞以上より、「朝と夜を概ね家で食べ、昼は 500 円程度をどこかで食べる自宅生」「朝食を欠食し、一食当たり 500 円の昼一夜ご飯をどこかで食べる下宿生」というステレオタイプの姿は浮かび上がってきそうである。また、生協食堂で食事をとっていけば主観的にはある程度の栄養バランスの担保は叶いそうであるが、8割方の人は生協以外で食事をするシーンがあるわけである。そのためそこが保証できず、実感ベースで言えば確かに院生の食生活はバランスを崩す危険性をはらんでいると言えそうである。

ただしこのような推論は実感ベースで、院生の食生活に関してはさらなる追調査が望ましい。

②大学院生のメンタルヘルスに関して

■55%の阪大院生が「悩みがある」と答えており、その中で原因として多かったものとしては「研究活動」「自分の性格や能力」「将来の進路」に関してであった。

⇔ところが、厚生労働省²によれば 12 歳以上で日常の悩みやストレスがあると答えた人は 46.5%で、20-29 歳で男 43.5%、女 55.7%だそうである。

☞従って、「院生は院生ならではの構造的な問題でストレスがかかりやすい」というよりは「院生も他の年代や階層と同様にストレスがかかるシーンはあると考えられるので、それがどのようなものかをしっかりと認識し、予防啓発を行っていく」という考え方が良いと思われる。

1 https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/wpaper/h28/h28_h/book/part1/chap1/b1_c1_1_02.html

2 <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k tyosa10/3 3.html>

4) 大学院生の生協運営参加に関して

【概略】大学院生の生協への運営参加を「総代会」「ひとことカード」「生協への意見と改善」「HandaiWalker」といった観点から考察した。いずれの観点からの考察においても、院生組合員の運営参加に関しては、数値的に「知らない」「改善につながらない」といった数値が増加しており、改善の余地があると言えそうである。

大学生協への運営参加

1) 総会・総代会を知っているか

①総代会(総会)を知っているか※							
	全国	04年	07年	10年	13年	16年	18年
知っている参加したことがある	3.6	1.3	2.3		1.2	2.5	3.3
知っているが参加したことはない	26.2	40.4	56.7		34.6	25.8	21.7
認知計	29.8	41.7	59.0		35.8	28.1	25.0
知らない	70.2	57.0	40.9		64.9	71.9	75.0
無回答		1.3					

学部生の総会・総代会の認知度が、18.6%(全国データ)であることと比較すると、認知自体は比較的されているものの、参加したことがある人の割合が低い。そもそも「知らない」と答える人の割合が年々増えていることも留意したい点。

2) ひとことカードの認知・利用

③一言カードを利用するか※、知っていて利用しない理由							
	全国	04年	07年	10年	13年	16年	18年
よく利用する	0.6	0.4	0.7		0.0	0.6	
利用したことがある	8.0	6.4	7.0		3.5	4.7	4.2
知っているが利用したことはない	55.0	65.5	71.1		45.5	36.6	38.3
伝えるほどのことではないから	33.0	34.0	40.9		25.3	20.9	20.4
面倒だから	15.5	21.7	21.1		11.6	13.1	14.6
改善につながらないと思うから	3.9	9.8	6.7		4.6	1.9	3.3
カード以外の手段で伝えるから	0.8	0.4	0.3		0.7	0.3	
その他	1.3	0.9	1.7		1.2	0.3	
無回答	0.5	0.4	0.3		2.1	0.0	
認知計	69.6	72.9	78.0		49.0	41.9	42.5
知らない	33.3	25.1	20.5		48.0	58.3	52.5
そのようなカードはない	3.1	0.9	0.7		3.0	1.9	5.0

全国的な学部生の調査によると、「知っていて利用」が 5.7%であることから、かなり使用されていないことが分かる。「知らない」と答える人が、完全 Web 化された 2010 年以降減少していることから、背景には店舗にひとことカードが設置されていないことが大きいと考えられる。伝える魅力も広がっていない模様。

3) 生協への意見は改善につながっているか

④生協への意見は改善につながっているか※							
	全国	04年	07年	10年	13年	16年	18年
そう思う	9.2	10.2	8.4		7.7	8.1	6.7
まあそう思う	47.8	56.2	55.4		47.8	45.0	41.7
思う計	57.0	66.4	63.8		55.5	53.1	48.4
あまりそう思わない	30.8	28.1	29.2		34.6	37.5	37.9
そう思わない	12.2	3.0	7.0		10.0	9.4	13.8
思わない計	43.0	31.1	36.2		44.6	46.9	51.7
無回答		2.8					

全国的なデータと比較すると、「思う」の合計値が全国は 52.0%を超えていることから、少し低い傾向と考えられる。(誤差の範囲かもしれないが…)それ以上に、年々「改善につながらない」と考えている人の割合が増えていることが注目。意見をしても変わらないと思われている。

4) 生協ニュースなどの冊子・チラシは参考にするか

⑤生協ニュースなどの冊子・チラシは参考にするか							
	全国	04年	07年	10年	13年	16年	18年
よく参考にする	2.3	9.9	11.4		7.0	4.4	1.7
たまに参考にする	17.0	33.0	46.0		27.6	23.8	18.3
参考にする計	19.3	42.9	57.4		34.6	28.1	20.0
あまり参考にしない	29.5	8.9	29.5		32.3	32.5	32.9
見たことがない	31.3	16.2	12.9		23.7	28.1	27.1
参考にしない計	60.8	25.1	42.3		55.9	60.6	60.0
無回答	19.8	2.1	0.3		3.5	11.3	20.0

組合員と生協のコミュニケーションツールである「生協ニュース(阪大の場合は、HandaiWalker)」について、16年から18年の調査で参考にする人が減り、無回答が増えていることが特徴的。そもそも機関紙の存在が院生まで届いていない?